

授業コード	00180801
科目名	国際化時代の平和
単位数	2.0単位
担当者	竹本真希子（広島平和研究所准教授）、徐顕芬（広島平和研究所准教授）、広島平和研究所教員
履修時期	後期
履修対象	1・2年
講義形態	講義
講義の目的	広島の被爆体験をはじめ、世界が経験した多様な悲惨な体験とその記憶の継承、現在の社会への影響について学ぶことにより、悲惨な体験と記憶の継承が、平和の喪失から平和の創造へと転じる上で果す役割について考える。 世界のさまざまな悲惨な体験や人権抑圧などの事例がどのように記憶化され継承されているか、また現在の社会にどのような影響を与えているかを学ぶ。 広島の被爆体験を出発点としつつ、世界の多様な事例を踏まえながら、国際的な平和を創造するための課題について議論するための基礎知識を得る。
到達目標	国際化時代の平和をめぐる問題とその背景に関して知識を習得する。（知識）（技能）（思考力） 国際的な平和を創造するための議論に必要な基礎知識を習得する。（知識）（技能）（思考力）（表現力）
受講要件	特になし。
履修取消の可否	可
履修取消不可の理由	
事前・事後学修	毎回配布する資料をもとに、参考文献を読み、予習・復習する。 事典等を用いて関連する用語について予習・復習する。 授業で学んだテーマに関して各自の見解をまとめる。
講義内容	順序および内容は変更の可能性あり。講義内でアナウンスする。 ウェブサイト（WebClass）で最新情報を確認してから出席すること。 第1回 ガイダンス 国際化時代の平和 第2回 ナチズムとホロコースト 第3回 周縁の被爆者――ろう者の原爆の語り 第4回 メディアにおける戦争と平和 第5回 朝鮮半島の平和――朝鮮の非核化は可能なのか 第6回 赤十字と人道支援 第7回 外交官として経験し、実感した世界の課題――平和をはじめとする世界の課題におけるヒロシマの役割 第8回 第二次世界大戦の喪失体験と記憶 第9回 国際連合と安全保障――ロシアによるウクライナ侵攻を踏まえて 第10回 中国の対外援助 第11回 東アジアの安全保障 第12回 貧困緩和と平和 第13回 持続可能な発展目標（SDGs）と平和 第14回 ロシアとアジアの紛争と地域協力――上海協力機構 第15回 沖縄の「戦後」――基地と自治
期末試験実施の有無	実施しない
評価方法・基準	平常点：40％ 毎回講義後に感想レポートの提出を求める。 期末レポート：60％
教科書等	教科書は使用せず、適宜資料を配布する。 参考文献： 広島市立大学広島平和研究所（編）『アジアの平和とガバナンス』（有信堂高文社、2022年） 広島平和研究所（編）『広島発の平和学』（法律文化社、2021年） 広島市立大学広島平和研究所（編）『平和と安全保障を考える事典』（法律文化社、2016年） 参考文献はさらに講義内で紹介する。
担当者プロフィール	授業担当者の経歴・研究内容等については、広島市立大学広島平和研究所ホームページを参照のこと。 https://www.peace.hiroshima-cu.ac.jp/faculty/ 研究室： 広島平和研究所（情報科学部別館4階）
講義に関連する実務経験	
課題や試験に対するフィードバック	受講票に書かれた感想や質問の内容に関して、代表的な意見や解答を抜粋して取り上げ、授業中やWebClass上で回答・講評する。
アクティブ・ラーニング	

キーワード	国際関係、平和、平和研究、ヒロシマ
備考	